



料金別納  
郵便



上田市議会議員 **上田大好き** 齊藤達也

たっさんかい

達参会ニュース

2023年(令和5年)第24号

発行人 達参会(齊藤達也後援会) 上田市中央2-20-12 討議資料  
TEL&FAX 0268-75-0175 E-mail: t.saito.koenkai@gmail.com



### 【産業環境委員会視察報告】

行政100%出資の株式会社が民間のノウハウを活かして黒字経営している道の駅みなみやましろ村(京都府南山城村)、凍結解凍覚醒法によるコーヒー栽培で全国



から注目されるやまこうファーム株式会社(岡山県岡山市)、水道事業広域化に「条件付き」での参加を決めた奈良県大和郡山市の行政視察を行いました。その中でも水道事業の広域化に向けて大和郡山市が提示した条件(自己水源の確保・更新、引継ぎ資金のルール化、老朽化を抑制できる管路更新率)は大変参考になったため、9月議会の一般質問でも取り上げ、上田市が議論のイニシアチブを取っていくことの重要性を痛感しました(裏面へ)。

## 【質問の意図】

水道事業の広域化について、個人的に最も懸念するのは、上田市に水道事業の経営権が無くなることです。広域化では、企業団を新たに設立する方向ですが、そこに上田市の意向はどれだけ反映できるのでしょうか。また、対等による事業統合を想定しているとの説明もありましたが、上田市は広域化検討の構成団体（上田市、坂城町、千曲市、長野市、長野県企業局）の中で最上流に位置し、最も水道料金が安く、100年前から先人たちが築き上げてきた豊かな自己水源を持っています。

**問** 豊かな水源を持つ上田市として、広域化の条件として優先的に投資する施設、管路を提示したり、県に対し財政支援を働きかけるなど、議論のイニシアチブを取っていく必要があると考えるが市長の見解はどうか。

答（市長）広域化した場合の施設、あるいは管路の整備は上流側から整備するということが基本。また、

将来染屋浄水場の浄水能力に余剰が生じることから、現在上田市内における県営水道給水区域である塩田地域及び小泉、仁古田地区をなるべく早く染屋浄水場の給水区域に切り替える取組が必要。

県に対する財政支援については、主張すべきことは主張して、構成団体との協調を図る場面では協力していくなど、是々非々で判断しながら取り組んでいる。

**再質問** 議論のイニシアチブを取っていくということでよろしいか。

答（市長）上流である上田市とすれば、そのイニシアチブを取っていくことは当然である。県の公営企業管理者に対しても、既に意見交換の場でその意向を伝えており、引き続きその姿勢を維持しながら進めていく。

→豊かな水源や微生物によるろ過方法による浄水場を持つ水道事業は上田市の大きな資産です。それらを将来世代にどのように引き継いでいくのが最善かを真剣に考えていきます。